

平成 30 年度中部模型航空連合会活動方針

平成 30 年 1 月 1 日

中部模型航空連合会会長 吉田茂平

1 活動の主旨

スタント飛行愛好家の大会参加意欲向上

審査基準の公平・公正の徹底

競技参加者選手の立場目線の運営

スタント飛行を行うにはその機体の大きさや飛行エリアの問題から、安全性や騒音・モラル等を守り地域住民の皆様、自治体、国の理解を得た上で活動出来る飛行場の確保が必要となります。

当地区におきましても、騒音及び安全確保の問題から飛行場を閉鎖せざるを得ない事例が発生したり、航空法改正に伴います飛行エリアの問題で益々大会を開催出来る飛行場の確保が困難になりつつあります。

また、ここ数年は選手の高齢化や審査への不信感から、大会への参加意欲の衰退が見られて来ました。

このことから、本年は現役選手を中心とした役員への一新を図り選手側思考による大会の企画を行い、試行錯誤をしながら改善して行く一年としていきます。

- (1) 大会の開催に関しましては、本会に所属する会員の各クラブが連携を取り合い大会開催会場を分散するとともに、総合扶助によってその円滑な運営を図っていきます。
- (2) 参加者におかれましては、操縦技術を向上し以て健全なる趣味を通じての親睦を図っていきます。
- (3) 騒音及び飛行位置に関しては、各大会におけますジャッジの判断で、不適切な該当者に対し警告及び飛行停止の指示を行えることとします。
- (4) ジャッジの公平性に関しましては、F3A級の大会におきましては4人ジャッジ以上の場合各演技点の上下カットで行い、3人以下の場合は合計点とします。
また、必要に応じ採点集計の開示も行うこととします。
- (5) 役員自らが大会運営に携わる体制とし、参加者との交流・意見交換の場からその要望などを聞き取り大会運営に反映することとします。

2 具体的推進施策

(1) スタント飛行愛好者の大会参加意欲向上施策

エキスパート大会（全国大会出場者の制限を行う大会）は多くの愛好者が参加する人気の大会です。平成30年度につきましても工夫を凝らした内容を盛り込み、春と夏の2回を計画しました。

春の大会には 愛好者の多い『Bクラス機（最大翼幅、全長 1,6m以下）』の種目『スポーツマン』に、多くの会員が参加していただけるよう操縦技量にあったハンディを設けました、また「F3Aクラス」は参加者拡大のため参加資格制限無しの部も別に設けます。

夏の大会には 「F3Aのシニアクラス（60才以上）」を設けました。

クラブ対抗競技会におきましては、新採用会場にて2日の開催とします。

1チーム4名編成

インドア曲技飛行大会は、F3P級の他に、参加選手の拡大を図る目的で初級、中級、上級クラスを合わせ開催します。

(2) 審査基準の徹底施策

全国大会予選につきましては、選手の技量向上を推進するとともに、選考を厳格に行う目的で「F3A日本選手権東海北陸地区予選」と「RC曲技オールジャパン競技大会中部地区予選」を分け開催します。

「RC曲技オールジャパン競技大会中部地区予選」と「東海三県RC曲技選手権」を兼ねて開催します

3 中部模型航空連合会主催大会の開催計画

- ①3月18日：新パターン勉強会
- ②4月15日：中部日本RC曲技エキスパート春季大会
- ③5月19日～20日：中部日本RC曲技選手権 兼
平成30年度F3A日本選手権東海北陸地区予選
- ④6月23日～24日：第38回RC曲技オールジャパン競技大会中部地区予選 兼
東海三県RC曲技選手権
- ⑤7月1日：中部日本インドア曲技飛行機大会
- ⑥8月5日：中部日本RC曲技エキスパート夏季大会
- ⑦10月7日：クラシック・エアーミーティング
- ⑧11月3日～4日：平成30年度中部日本RC曲技クラブ対抗競技会